かるもし

46

麻生区文化協会会報

絵と文・松田洋子

# 麻生不動院（明王山）

一月二十八日のお昼前、柿生駅から歩き、麻生不動院に向かう。空は灰色の雲に覆われ、手足の先がかじかむ寒さ。一年に一度、柿生が最も賑う「だるま市」が立つ日だ。不動院に通じる狭い道には数百軒の食べ物屋をはじめ露店がぎっしり。歩行も容易にできないほどの人出でごった返していた。

このだるま市は、明治三十七年に鶴川村能ヶ谷の露天商が東京府北多摩郡村山村からだるまを仕入れたのが始まりで、現在は『相州目無しだるま』で平塚から仕入れており、『関東納めのだるま市』といわれる。

軒を並べただるま屋。客との値段交渉のあと、だるまが売れるたびに売り手は火打ち石で切り火を行い、「ヨヨヨィ、ヨヨヨィ、ヨヨヨィ、ヨィ！」という威勢のいい掛け声と拍手が起こる。これは縁起担ぎで、買い手の家内安全と商売繁盛を願っての儀式である。

麻生不動院は、トクサ（シダの一種）刈りに来た里人が八寸丈の木像を発見しここに祀ったという伝説により、木賊（とくさ）不動とも呼ばれている。また、火伏せの不動さまとして信仰が篤く、だるま市当日は本堂も開かれ、火難を防ぐためのお守りやお札が販売されていた。

後に聞くところ、厳寒にもかかわらずこの日の人出は約六万人との話であった。

# 地域資料を電子化すると

麻生図書館　館長　鈴木　隆

昨年亡くなった水上馨さんの蔵書を五百冊以上、麻生図書館に寄贈していただいた。それをきっかけに、水上さんのフロッピーディスクをお借りしている。氏は生前、麻生区について、さまざまな場所で話をされており、その際の参考資料が二十二枚のフロッピーディスクに残されていた。ワープロ専用機で作成されたもので、今、テキスト化の作業をしている。

一枚のディスクに六十近くの文書があり、たいへんなボリュームで、積み重ねられたお仕事の大きさに頭が下がる思いだ。これから、引用の確認や参考文献の整理、原稿の校正などを行い、できるだけ早くまとめられるよう奮闘している。

ところで、文学作品をインターネット上で読めるようにする試みが「青空文庫」の名前で、すすめられている。夏目漱石や芥川龍之介など、著作権が失効した作品をボランティアが入力・校正して、電子上で公開している。昨秋には七千以上の作品が公開され、自由に利用されている。

このようなことが、麻生区の地域資料・郷土資料・行政資料などでできないものか。そんなことを考えた。水上さんの文書もそのように活用できないかと考えている。

多くの活字資料は、保存スペースの確保や図書の劣化の問題があるが、誰でもがいつでも手元で読めるよさがある。

一方、デジタル資料は、停電や機器故障には対応できないが、省スペースであること、インターネット環境にあれば何人もが同時に読めるなどのよさがある。それらを知った上で活用していくことが必要だ。

話は変わるが、麻生区には郷土の歴史を調べ、発表されている多くの方がいる。水上さんもそのお一人だったが、これらの方々が一堂に会して、その研究成果を発表しあう場ができればいいと思っている。

郷土史の研究会という形が取れるといいと思うが、たとえば、電子的な空間でそのようなやりとりのできる場があるとよいと思う。文化協会の中で、あるいは、図書館や行政機関などが事務局としてなんとかとりくめるとよいと思うのだが。

水上さんのことでは、文化協会での活躍はもちろん、川崎市立図書館にとっても重い存在だった。麻生図書館所蔵の「いなだ子ども風土記　その1　農業編」から「その3　年中行事編」の奥付を見ると発行者に「水上馨」とある。昭和四十四年から昭和四十六年にかけて刊行された本だが、多摩図書館の前身稲田図書館長の時、発行されたのだった。

この本もぜひ電子化したい本だ。画像取込みで本全体を画像処理し、それらをテキスト化して、表紙の味わいを伝えながら、検索もできたらいいと思う。

# 出会い

## ―麻生区文化協会と共に―

田沢 契子

原稿依頼のお知らせを受け、私はいつから、文化協会とのおつきあいが始まったのかしらと、日記を見ました。日記は中学三年頃から大学ノートに書き、自分の生活記録としています。日記には一九八七年四月二十八日、「雑学教室」の野外行事で片平を歩く、とありました。お屋敷山、修広寺、善正寺、草木寺などへ行き、柿生へ戻ってきました。今まで自分の家の近くにこんなにいい散歩道や、歴史のあるお寺があることを知りませんでした。

わが家が渋谷益左右さんのお宅の近くなので、さそっていただいたのだと思います。そのご縁で文化協会に入り、みなさまとのおつきあいが始まりました。

麻生市民館ができるまでは、多摩市民館の社会教育講座にも参加しており、そこで友達もできました。

和光大学で司書の養成講座があるから行ってみないかと、お誘いを受け、仲間と一緒に週に二日～三日ほど、二年間大学へ通いました。そこで図書館司書、社会教育主事、博物館学芸員の単位をとりました。大学は春休み、夏休みも長いので、負担にはなりませんでした。科目にもよりますが春、夏の休みには二泊三日の合宿ゼミにも参加し、学生気分になって若返りました。

多摩市民館の女性史講座が終った後、自分たちで勉強する自主講座では「源氏物語五十四帖」を十一年かけて読み、その活動は新聞にも紹介されました。その後も「紫式部日記」「枕草子」「蜻蛉日記」などを読み、今も続いています。初めの講師は、後に和光大学の学長になり、一九九二年に川崎市文化賞を受けた杉山康彦氏でした。杉山氏が亡くなられた後は、故武者小路実篤氏の三女でいらっしゃる辰子先生が講師です。古典を読んで感ずることは、身分や時代が変っても人間の心の底に流れているものは変らないということ。だからこそ、今も読みつがれるのだと思います。

文化協会の活動と並行して「多麻地域文化賞」があります。一九七九年の後半、当時の多摩区の区民の間から〝川崎北部における近代的市民館建設の運動〟が起り署名や資金カンパ活動が行われました。これにより集まった資金を基金として「多麻地域文化賞」が設立されました。多摩、麻生両区に居住または勤務する人々を対象とし、地域文化の推進に地道な努力を続けた人々に、賞金五万円と、賞状の代りに結城天童画伯の色紙を贈呈する。文化賞委員会の運営と賞の選考は藤田親昌氏、小林直樹氏、山室静氏、柏木俊夫氏、結城天童氏が中心でした。これは十年続き『多麻地域文化賞十年』の記念誌を一九九八年七月一日に発行し、文化賞は終了しました。途中、藤田親昌氏、柏木俊夫氏が亡くなりました。その賞では毎年三つの賞が設けられ十年間、三十の表彰が行われました。私はその事務局を担当した一人です。

仲間との文学散歩

文化協会では渋谷氏の後、私はアカデミー部の運営委員になり、短歌や俳句講座、俳句大会、年に二回、近くの史跡を歩く「雑学教室」を担当しました。その折には、地元の箕輪敏行先生、故笠原古畦さん、市民館の清水さんにはお世話になりました。今でも感謝しています。みなさんの協力がなかったらとてもできなかったと思います。文化協会二十年の歴史と共に歩んだわが人生です。

# 邂逅

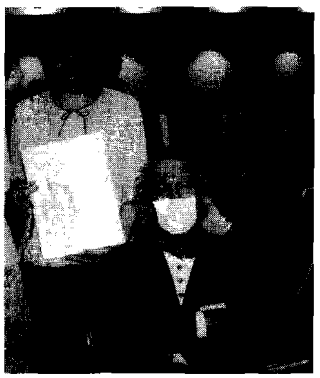
## 画家　安喰虎雄がめざしたもの

山本絢子

### 理想を掲げて街づくり

安喰虎雄氏が逝って三年になる。彼が新百合ヶ丘で蒔いた種は、発芽し、大きく成長してたくさんの実をむすんでいる。果樹が天候や肥料などによって実の少ない年もあるが、この樹はよく実をつける。

二十五年前、麻生区の誕生にあわせて文化協会が設立され、会長に就任した藤田親昌氏をリーダーに、文化の香り高いニュータウンを目指して麻生区にすむ文化人や芸術家が腰を上げた。文化協会には美術工芸部をはじめいくつもの部が立ち上がり、数々の活動をはじめた。同時に美術家が結集した美術家協会もつくられ、制作活動と同時に積極的に発表もしてきた。その両方の中心になって引っ張っていったのが安喰虎雄氏である。



『民芸の女優さんを描くデッサン会』にて

美術工芸部の部長に就任した安喰氏に藤田会長が、民芸の滝沢修さんや宇野重吉さんを紹介し、『舞台衣装をつけた民芸の女優さんを描くデッサン会』が始められた。このデッサン会は毎年実施され、現在に至っている。

今年の三月初旬、新百合21ホールで、『新ゆりプレ芸術祭美術展』が開催された。

麻生区文化協会と麻生区美術家協会が、広い会場に大作を並べて麻生の美術力をアピールし、多くの来場者を迎えることができた。

「川崎市の北部に作品を展示するスペースを」といい続けた氏の願いがようやく実現したのである。

安喰氏が存命であったらどんなに喜び、満足したであろうかと、残念でならない。

また、この美術展では、二十四年間にわたって実施されてきた『民芸の女優さんを描くデッサン会』の作品二十五点も展示された。

### 虎さんの原点

安喰虎雄氏は、昭和六年一月、島根県出雲市に生まれた。旧制の大社中学に進み、そこで出雲出身で東京美術学校出の美術教師に出会う。子どものころから絵が好きで、先生の情熱的な、絵や芸術の話に大きく感化されたという。島根大学に進学した虎さんは、国画会で活躍した井上善教先生の薫陶を得、在学中に上野の独立展に出品、入選した。

卒業後は家庭の事情もあり、出雲で学校の美術教師をしながら絵を描いたが、画家になろうと上京を決意する。上京してからは横浜に居を構え、所帯を持ち、画家として旺盛な制作活動をしていく。

昭和三十一年、春陽会展に初出品して春陽会賞を受け、三十四年・三十八年には安井賞候補新人展に『蟹』を出品、注目される。以来、蟹をモチーフにした静物画が、終生のテーマとなる。

出雲で出会った先生や、出雲の風土が、その後の虎さんの芸術に大きく影響を及ぼしていくことはいうまでもない。

### 初めての渡欧

昭和四十年、安喰氏の才能を期待して『安喰虎雄渡欧後援会』が組織され、初めてのヨーロッパ取材旅行に出かける。後援会には藤山愛一郎をはじめ、大臣・実業家・島根・神奈川両県知事・出雲市長などが名を連ねた。将来を嘱望して大変な期待をもたれたことがうかがわれる。

パリにアパートを借り、スケッチをして回った。二か月かけてヨーロッパ各国を歩き回って取材もした。西欧の永い歴史のなかに培われた芸術や人々の生活、近代美術の潮流にどっぷり浸り、力をつけて帰国した。フランスで制作活

動をしている邦人との交わりも、その後の氏の制作活動に大きな影響を与えた。

帰国後の四十一年、横浜・大阪・名古屋などで個展を開き、作品を問うた。この後、毎年のように作品展を開催、ますます精力的に制作に励むことになる。

## 邂逅

昭和四十二年、新百合ヶ丘に居を移し、アトリエを構える。制作環境も整い、油の乗りきった充実期を新百合で過ごすことになる。

私が安喰氏と直接交わることができたのは、文化協会に入会した平成三年からである。高名な画家として知られていたから、どんなお話をされる方かしらと少なからず緊張したことを憶えている。

私に何か相通じるものがあると直感されてか、気さくに話をされるが、私の方は緊張で固まってしまっていたような気がする。

ある年、美術展の会場で、氏から、「セザンヌについて話をさせてほしい」との申し出を受けた。私はその申し出を快諾、四十人を相手に『私とセザンヌ』の講義を拝聴した。

紙一面にぎっしり活字の詰まった論述と、セザンヌの作品の図版をたくさん用意されて、なぜセザンヌなのかを熱っぽく語ってくれた。おそらくこのころ「近代絵画の父」といわれるセザンヌに立ち戻り、ご自身の作品を見つめなおしていたころだったのかもしれない。（これはあくまで私見ではあるが）

私は主催するゼミで、何回か公開講座を実施した。

その一回目が新百合21ホールで行われ、『法隆寺金堂壁画の魅力』と題する当時成城大学教授であった上原和氏の講演であった。

ちなみに法隆寺金銅壁画は昭和二十四年に焼失してしまい、その後日本画壇の総力をあげて模写・復元したものが収められている。いずれにしてもわが国が世界に誇る飛鳥時代の仏教絵画の傑作である。

このゼミに出席した安喰氏は金堂壁画に寄せる思いを熱弁した。

西欧のキリスト教絵画を目の当たりにし、シルクロードの踏査をとおして見た人類の文化遺産を知る氏が、法隆寺金堂壁画がいかにすばらしいものであるかをいいたかったのだろう。

私が、かつてフランスでランスやシャルトルやノートルダム大聖堂の中に身をおいたときの感動と衝撃、法隆寺の金堂内を、足音を堂内に響かせながらゆっくり拝観してまわる、そのときの感動も同じように人間の魂を揺さぶる。まさにそれである。

どんな芸術でも言葉や映像では真の姿は伝わらない。おかれている現場にいて、作品と同じ空気を吸い、息をする。このとき受ける感動はまさしく戦慄を覚える深いものである。

戦後、わが国の美術界は堰をきったように、新しい表現を模索し、抽象表現が大きな流れの一つになっていく。具象表現も旧来のものからさらに新しい表現を探って多様な表現が試みられ、思いを同じくするものが集まって議論を戦わせ、数多くの美術団体が誕生した。

『私とセザンヌ』の講義風景

安喰氏の初期の作品は、少なからず後期印象派、中でもセザンヌの存在がベースにあることは一目瞭然である。ビュッフェの表現に相通ずる作品もあり、終生、安喰具象表現の可能性を求め、死んでも絵筆をはなさないといった、画家として大満足の人生だったと私は思う。そのかげには一緒に作品を描いて夫婦ダブル入選の経歴もある夫人の存在が大きかったことはいうまでもない。

新百合ヶ丘には、芸術を解りあえる仲間がいる。感動をわかちあい、切磋琢磨して心豊かな人生を送りたい、それができると信じた安喰虎雄氏の人生だったのではないだろうか。

※昨年十一月、故郷出雲市では『出雲が誇る画家　安喰虎雄遺作展』が開催された。一九五二年の『二十一歳の自画像』から、二〇〇六年の春陽会展出品作『卓上の蟹達』まで、五十点を展示し、画家の生涯をたどる大がかりな展覧会であった。会場は出雲文化伝承館。

平成二十年度

## 第二十回　麻生区文化協会俳句大会

実行委員長　藤田　皓

**川崎市長賞**

手を握るだけの看取りや明け易き　麻生区　大谷　長平

**川崎市議会議長賞**

すこやかに生きて百寿や初鰹　豊島区　中村　栄翠

**川崎市教育委員会賞**

無人駅金木犀から乗ってくる　麻生区　藤田　皓

**川崎市麻生区長賞**

信濃路の旅に寝惜しむ星月夜　青葉区　金子　桃幸

**川崎市麻生市民館長賞**

涼しさを汲む古里の車井戸　麻生区　箕輪　玉兆

**川崎市総合文化団体連絡会理事長賞**

良き節目選びて籠師竹を伐る　麻生区　吉澤　篁村

**川崎市俳句連盟会長賞**

野の色の吹きこぼれたりなづな粥　麻生区　川嶋　正子

**川崎市観光協会連合会長賞**

万緑に染まる目薬差しにけり　麻生区　藤森　成雄

**麻生観光協会長賞**

身に馴染む野良着勤労感謝の日　麻生区　白井　克恵

**麻生区文化協会長賞**

たれかれの安否小耳に敬老日　麻生区　鴨志田杜灯

**俳句大会当日優秀句**

席題「風」・「長」読込み

読み返す源氏千年夜長の灯　馬場身江子

秋風を切るアンカーの赤だすき　本玉　秀夫

刈る稲に風が加はる重さかな　近藤ひさえ

安曇野の風を広げゆく芒　彦坂　秀窗

山小屋を閉ざす槌音秋の風　白井　克恵

揺ぎなき長寿の家系新松子（しんちちり）　鈴木　翠明

芒野に生まれては消え風の道　糸山　謙治

一陣の風に音なす枯蓮田　杉本　好子

林檎剥き許してゐても長き默　市川　愁子

長らへて日々を新たに大根焚　小倉　康次

平成二十年度

## 俳句講座点描

畔田　二郎

第一回　八月二十六日
第二回　九月　二日
第三回　九月　九日

第一回目の講師は全日本川柳協会理事の西来みわ先生。「俳句と川柳」と題し、川柳という文芸の概要、歴史、観賞、そして作り方を話された。そして当日参加者が会場で詠んだ川柳を同行の安藤喜楽氏と共に批評して下さった。

講師の西来みわ先生は川柳の川上三太郎の句に共感を覚え川柳の道に入り、長女誕生の時には、三太郎師から頂いた次の一句が心に残っていることなどを話された。

子供は風の子天の子地の子

第二回目の講師は俳誌「狩」白羽同人、俳人協会理事の杉良介先生。「俳句の話と実作指導」と題し「狩」主宰の鷹羽狩行の代表句を懇切丁寧に解説された。その中の三句ほど紹介する。

天瓜粉しんじつ吾子は無一物

摩天楼より新緑がパセリほど

氷に登る魚わが選句月三万

また、受講者が最も期待していた募集句の添削、講評には緊張が溢れた。

第三回目の講師は日本伝統俳句協会副会長、虚子記念文学館理事の大久保白村先生。「俳句あれ・これ」と題し、著名な俳人の句、辞世の句、絶筆、また政治家の俳句について述べられ、俳句の深さを話された。その中から数句を掲載する。

秋風や眼中のもの皆俳句　虚子

銀杏の礫に遇ふも弥陀の庭　笠原古畦

したたかと言はれて久し栗を剥く　中曽根康弘

梅雨空の向こうに白山我ひとり　森喜朗

首塚に盆市のもの預けられ　宇野黎子（宗佑）

辞世の俳句か絶筆か

糸瓜咲て痰のつまりし仏かな　子規

旅に病んで夢は枯野をかけ廻る　芭蕉

これがまあつひの栖か雪五尺　一茶

ひと魂でゆく気散じや夏の原　北斎

# 禅寺丸柿の文化散歩

文化サロン部　部長　加藤孝子

麻生の名物、禅寺丸柿の見学を中心に岡上から柿生までの散策を企画しました。昨年十月十九日(日)の雲ひとつない爽やかな秋晴れの朝、三十五名が鶴川駅に集合、歩き出して十分足らずで梶司朗邸に着きました。庭には、国の指定を受けた日本最古の禅寺丸柿の巨木がそびえ立っていました。

真っ赤なまん丸の柿が鈴なりに実った大木の前で、梶氏から地元の柿の歴史やきめ細かい手入れの話などを伺いました。

幹の太さ二メートル七十センチ、樹の高さ十三メートル。四百年もの樹齢にもかかわらず、たわわに実をつけた巨木が青空にそびえ立つ姿はまさに圧巻でした。

梶邸に着くと、菅原会長が参加者全員に冷たくした禅寺丸柿を食べさせて下さいました。朝早くから皮をむいた柿を三十五個も持ってこられた会長のお気遣いに感動しました。美味しい甘柿で喉を潤し、竿で庭の柿を自由にもぎ取って土産に頂き、参加した子供たちも大喜びでした。

梶邸に別れを告げた後、次は岡上の東光院の静かな境内。菅原会長から岡上の由来を伺い、さらに長閑な道を歩いて、昼前に柿生駅へたどり着きました。折りしも地元の商店街は柿まつりで賑わっていました。

程よい汗もかき、お腹も空いており、柿生の「とん鈴」での豪華な昼食と冷えたビールのおいしかったこと。

食後に、禅寺丸柿に関連する北原白秋の長歌「柿生ふる柿生の里名のみかは禅寺丸柿～」や地元の文化人の歌、参加者からの俳句も披露されました。帰りには参加者全員が柿のお土産まで頂き、ふる里を共有できた幸せにひたりました。皆にこやかな顔の楽しい禅寺丸柿の文化散歩でした。

日本最古の禅寺丸柿の巨木

# 魅せます。あさおの美術力。大成功だった『新ゆりプレ芸術祭美術展』

私たちは、長年にわたり、「麻生区に本格的なギャラリーを」という願いを持ち続けてきました。二十年度になり、新百合21多目的ホールにギャラリーとして使える設備が設置され、ようやくその願いの一部がかないました。ご承知のように、四～五月にしんゆり芸術祭２００９『アルテリッカしんゆり』が企画され、音楽・映画・演劇の祭典が開催されますが、残念なことにこの行事に美術展は含まれておりません。

「麻生区の美術家や美術愛好家による作品展示を」という菅原会長らの強い働きかけが実り、昨年の十月に、ホールを管理する川崎市文化財団から、「三月に麻生区美術家協会と麻生区文化協会の共催で美術展をやりませんか」というお誘いがかかったのです。準備期間が非常に短いので心配でしたが、せっかくの機会であるから、美術展を成功させて、本格的ギャラリー設置へ向けてアピールしたいという合意ができ、両者の代表からなる実行委員会が動きだしました。

文化財団のご努力により「アルテリッカ」のプレ・イベントとしての位置づけをいただき、会場使用料の半額負担、案内はがき・ちらし・ポスター印刷費の全額負担など、全面的なご支援をいただくことができました。

『新ゆりプレ芸術祭美術展』風景

美術家協会十六名が大作を披露。文化協会も書の大作五点、会場中央には十六名の生け花の共演、さらには写真・陶芸の力作が並びました。また、本会主催の「民芸の女優さんを描くデッサン会」参加者による作品展にも力作が寄せられました。

三月三日～八日の開催期間中、入場者数一六二二名という本展の成功は、「あさおの美術力を」示す好機となりました。（佐藤勝昭）

## 会員の活躍

### ✻菅原敬子さん叙勲

平成二十年の秋の叙勲で、我らの会長菅原敬子さんは「旭日小綬章」を戴いた。これは、菅原敬子さんが川崎市議会議員として五期二十年間、尽くした功績に対して与えられたものである。

この話を聞いたとき、「お祝いの会を開かなくては」と言ったところ、「私の考えがあるので待ってほしい。」と言われた。そこで出されたのが『叙勲を披露し皆様に感謝する集い』である。

菅原敬子氏

二十年もの間、市議会議員として活躍できたのは支えてくれた団体・市民の皆さんの力があってこそ。私が皆さんに感謝する会を開きたいということである。

十二月二十七日、会場ホテルモリノ新百合丘は七百名の参加者であふれた。いかにも庶民の代表菅原さんらしい論理である。政治家としての二十年が終わった菅原さん、今度は麻生の文化向上のため、麻生区文化協会の会長として五期はやってほしい。（千坂隆男）

### ✻総文連三十五周年表彰

二月二十一日、エポック中原で総文連の三十五周年式典が挙行された。その席上、麻生区から**加宮節子さん**が川崎市長表彰を受けた。長年に亘り会計・副会長としての活躍、夏休み親子教室でのお茶の指導等が認められたもの。**吉澤伊三夫さん**が総文連理事長感謝状を受けた。長年に亘りアカデミー部長としての活躍、「あさお古風七草粥の会」での献身的な活躍が認められたものである。

共に慶びたい。（千坂隆男）

### ✻昌原市（チャンウォン）（韓国）女声合唱団と麻生童謡をうたう会の交流演奏会

『ひびけ国をこえて・女声の歌こえ』は、平成二十年四月二十五日（新百合21ホール）、「麻生童謡をうたう会」主催で開催された。

日本のうた声・韓国のうた声・国をこえてのうた声が披露され、最後に「新アリラン」と「さくらさくら」を全員で合唱。両団員の美しい衣装も印象的だった。歌を通して国をこえ、民族をつなぐ心は、参加者のフレンドシップをより深めたに違いない。（松田洋子）

### ✻～地域に夢をのせて～こどもたちの『トンネル壁画』

尻手黒川線の道路整備で完成した高架橋下のトンネルに、柿生小学校の全校児童が壁画を描くことになった。二月二十四日の午前中、制作現場を取材。同小学校卒業生で当文化協会所属の画家、佐藤英行さんが指導にあたっていた。

時刻になり、作業パーカー姿の低学年の児童が列になり、やってきて、さっそく制作に取りかかる。

この日は「草原の動物」と反対側の壁面に描く「海の生物」だ。子どもたちはどの子も真剣かつ楽しそう。先生方と、見守るおとなたちの眼も真剣でやさしい。

町内会が提案し、区役所や川崎塗装工業会の協力により実現した児童のトンネル壁画は、二月二十六日に無事完成した。この壁画は、子どもたちの記念や思い出だけでなく、今後は防犯や落書き防止に役立つことになる。（松田洋子）

## 編集後記

▼「佐藤英行油彩展」（本年二月十六日～二十二日）が画廊「楽」（関内駅前）にて開催された▼テーマは自然が造る「古美」▼トンネル画の子どもたちからも元気をもらい、壁画のような大作が、現在進行形で展示されていた。（松田記）

松田洋子・関森田鶴子・千坂隆男
橋本周・佐藤勝昭

麻生区文化協会会報
からむし　第四十六号
平成二十一年三月三十一日発行
発行人　麻生区文化協会
　　会長　菅原敬子
編　集　麻生区文化協会
　　広報部
川崎市麻生区万福寺一―五―二
　麻生文化センター内
☎　〇四四―九五一―一三〇〇
印　刷　マイタウン21